

## 再生可能エネルギーの本格的な普及に向けて

地中の温度は年間を通して15～16℃と一定しています。当社では、地上と地中の温度差を夏は冷房、冬は暖房のエネルギーとして効率的に取り出す「地中熱ヒートポンプシステム」の開発と実用化に平成19年より取り組んできました。

同時に地中熱による熱交換システムも、「クローズ型(冷媒を地下100m程度まで循環させる)」→「オープン型(地下水を循環させて熱エネルギーを取り出す)」→「直房型(エアコンの室外機にあたる部分を地中に設置して熱交換を行う)」と小型化・低コスト化も進めてきました。その結果、公共施設を含めて、地中熱冷暖房システムを導入してくれる建物も増えてきています。

地中熱ヒートポンプシステムは、日射量や風力といった気候条件に左右されず安定的で自己完結型の優れた省エネシステムです。試算によると、地中の温度差を冷暖房に利用することでエネルギーコストを

50%以上、CO2排出量を65%以上カットすることができます。

ここ数年来、地球温暖化防止のために太陽光や風力・地熱などの再生可能エネルギーが注目されています。太陽光発電は急速に普及しましたが、高額な固定価格買い取りを目的とした一部投資的な動きが加速したことで、送電線の容量オーバー、電力会社の買い取り制限、遊休農地や山林の大規模開発など様々な問題が生じています。しかし、再生可能エネルギーは石油などに比べて導入コストがかかりますが、地球環境を守るためにはコスト負担の必要があることを認識しなければなりません。そのためには、国や地方公共団体は子供たちへの教育を含めた長期的な計画を立てて再生可能エネルギーの導入促進を図って行って欲しいと思います。また、我々事業者は導入促進のために、更なる技術革新とコストダウンを追い求めていかなければなりません。

行政の後押しと事業者の努力、そして使用者の理解の3つの力を合わせることで、再生可能エネルギーの本格的な普及につながると思います。

